医療的ケア児が通う学校における「チーム学校」構築に向けて

教員と看護師の相互理解推進の試み

Building a "Team School" structure for children with special medical needs：Approaches to Fostering Mutual Understanding Between Teachers and Nurses

亀井智泉

Kamei　Chisen

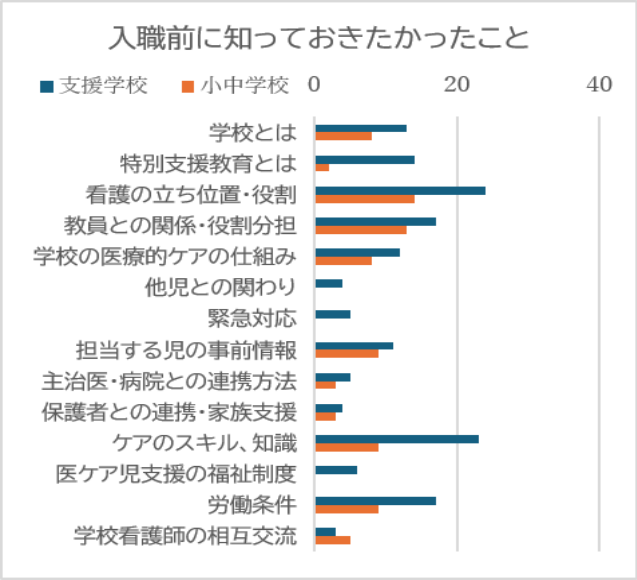
信州大学医学部附属病院（長野県医療的ケア児等支援センター）

Shinshu University Hospital (Nagano Prefecture Support Center for Children with Medical Complexities)

Key words:医療的ケア，専門性の相互理解,チーム学校

目的

特別支援学校のみならず、小中学校に通う医療的ケア児が増加している。学校での医療的ケアを担う医療的ケア看護職員(以降「看護師」と表記)は多くが非常勤であり、医療職が他にいない環境であるため、相談や支援の機会が限られ、看護師が専門的判断を単独で担う状況も少なくない。教育や学校組織について知る機会もないため、教育現場での自らの役割は不明確で教員との関係性にも悩んでいる。【グラフ】



一方で教職員も、医療的ケア児を受け入れることへの不安や戸惑いと、看護師という異業種を「チーム学校」に受け入れることの困難を感じている。

本研究では、医療的ケア児が通う学校で、教員と看護師の相互理解をすすめるため、医療的ケア児等支援センターが行った取り組みとその成果について報告する。

方法

1　教職員への医療的ケアの理解促進

○気管カニューレ、胃ろうチューブ等、医療デバイスに触れる体験を含めた医療的ケア研修

○学校内での急変時対応のシミュレーション訓練

2　看護師への「教育を知る」機会の提供

○教育委員会-、学校組織(校内分掌、教育課程、個別の教育支援計画等)について教員が解説する研修

○特別支援教育、自立活動について教員が解説する研修

3　学校における体制整備への助言、後方支援

○主治医との連携、情報共有の方策の助言

○訪問看護による情報提供、保育所等訪問支援事業の活用等、地域看護連携の構築による学校看護師の支援

結果

【看護職の変化】

個別の教育支援計画や教育目標を知りたい、という意識の変化、教育の場では教育目標達成のために看護師は黒子として教員と協働する、という行動変容が生まれた。

【教職員の変化】

「医療のことはわからないから看護師に任せる」から、「全職員が医療的ケアを理解して、急変時にはやるべきことをやれる体制をつくる」へと意識が変化した。

考察

教員も看護師も、こどもの日常の様子を観察し背景にある情報を収集し、アセスメントに基づいて専門的支援を行う、という共通の実践課程を有している。教員と看護師が相互に専門性を理解することで教育目標の共有と協働につながり、医療的ケア児を含むすべての児童生徒の安全・安心と学びを支える「チーム学校」の基盤になると考える。

参考文献

・泊祐子「医療的ケアを担う看護師が直面する困難と課題」『教育と医学』751 号, 2016.1, pp.74-76

・長谷川由香　2020 年　「特別支援学校における「医療的ケア」の法制化に伴う教員と看護師の役割の変化」『佛教大学保健医療技術学部論集第 15 号

・和田希　2022 年「医療的ケア児の教育に関する現状と課題」『国立国会図書館調査と情報 No. 1170